

かまくら 女性史の会 Newsletter

第 127 号

2025 年 5 月 17 日 発行

〒248-0012 鎌倉市御成町 18-10

NPOセンター鎌倉 気付

メールボックス 26

E-mail: syokmat@yahoo.co.jp

《大手高校創立 120 周年に出席して》

2022 年 10 月 15 日、大手通りの「アオーレ長岡」で開催された。高校の同級生のネギ（旧姓根岸）と祝賀会にクラス会として参加する予定だったが、彼女の訃報で頓挫した。110 周年のときは 100 周年の盛大さに比べ淋しかったが、隣席の方と 10 年後また会いましょうとの言葉で出席を決めた。14 日から夫には施設へ行って貰い月曜に帰宅の予定で出発した。「かく子の家」に着いた途端、夫が施設のトイレで転んで頭を打って「藤沢脳神経外科病院」に入院したと連絡が来る。祝賀会のご馳走はパーカと気落ちしていたが息子から「コロナで面会駄目だから 3 日間楽しんで来いよ」と電話が来た。2 時までには津上の友が福島より来るのを迎え一緒に式典へ行く。講演会の講師も前は有名人だったが今回はアスペルガー障害の卒業生という。講演代をケチったと思ったがいい話が聞けた。「未来をどういきるか!!」1 時間の話の内容は寝不足もあり覚えていないが彼の口から「明治の 36 年 5 月、月立つ初めを 1 日ともて」と第二長岡高校時代の創立記念日の歌の歌詞を聞いて気持ちがしっくりした。歌詞に続く話は、「その 5 月に生活指導の先生に「煙草を喫っているらしいな。退学だぞ」「先生そう言っている生徒を見つけられなかったら先生やめますか」この対応に父親は「よく返した」とほめた。その年の職員会議の 1 号となったが退学は免れた。事程左様にアスペルガーの私でも卒業できた面倒見のいい学校です。誇りを持ってこの学校を愛してください」と結んだ。

書道部などのパフォーマンスの後、祝賀会のあるグランドホテルに移動。福島の友は 1 万円の寄付はしたが祝賀会の会費は無く、夕食を買って足が悪いので一緒に家まで送った。着替えをして少し遅れてホテルに戻る。席に着けば旧校歌時代の仲間は 3 人のみ。ご馳走は海のものが多い前菜でまずは白ワイン。牡蠣のフランコンソメスープ、帆立貝のガリシア風など。隣の方がお皿を私のほうに寄せて「海のもの苦手なの」こんな時、私の胃袋は底なしになる。若姫牛のステーキを彼女に「どうぞ」と言えば「今日は飲みに徹するから」と言われ私は二人分ペロリ。雲丹のトマトパスタは流石に二人分も胃袋に入らない。思案して留守番の友の事情を話しコロナマスク用の紙に入れ持って帰ることにする。お隣「じゃあこのケーキも」とデザートのお土産もできた。

司会者が「では 130 周年もまたお会いしましょう」に出席した 3 人は『そうしましょう』と皆と声を共にした。そう目標ができた！人生 100 年時代 130 周年にはまだ 100 歳になっていない筈。パーキンソンの友に車いすで出席しようと誘った。今、新たに 5 人からいい返事が来ている。130 周年が楽しみ！！

2025 年 5 月 12 日 かまくら女性史の会会員 前田セツ